

2026年2月期 第1四半期決算

(2025年3月1日～2025年5月31日)

2025.6.26



- ソリューション提供モデルと経営環境
- 2026年2月期 第1四半期 連結決算概要
- 2026年2月期 上期および通期 連結業績見通し
- トピックス
- APPENDIX

ソリューション提供モデルと 経営環境



 YE DIGITAL

ソリューション提供モデルと経営環境

ソリューション提供モデル

顧客・ユーザー

① ビジネスソリューション

ビジネスDX
(ERPソリューションなど)

顧客向けシステム開発

⋮

② IoTソリューション

物流DX

畜産DX

スマートシティ

文教DX

⋮

③ サービスビジネス

Smart Service AQUA
(物流DXサービスセンター、AQUA DataFusion)

- ・サステナビリティ経営の重要性
- ・人的資本経営の重視(人材育成、多様な人材の活用、インゲージメント等)
- ・社内DX、業務改革の推進・強化 など

経営環境

① ビジネスソリューション

- ・データ利活用したデータドリブン経営の進展
- ・企業の日常業務改善から業務の抜本的改革へ

② IoTソリューション

- ・人手不足/従事者の高齢化(物流業界、畜産業界など)
- ・環境負荷等サステナブルへの対応
- ・セカンドGIGA(スクール構想)の促進

③ サービスビジネス

- ・クラウドサービス需要の拡大と成長
- ・生成AI等を活用したデータ利活用サービスの増大
- ・ビジネスモデルの創出と進化
サブスク、シェアリングエコノミーなど

2026年2月期 第1四半期 連結決算概要



YE DIGITAL

2026年2月期第1四半期 連結業績サマリー

売上高

4,920 百万円 (△2.8%)

物流DXが減少するもビジネスDXが牽引し、前年同期レベルを維持

営業利益

315 百万円 (△3.2%)

賃上げ等人的投資が増加も生産性向上により、前年同期レベルを維持

ROE (年換算)

13.0 % (△0.1 pt)

前年同期と同レベルで推移

※()内の数値は前年同四半期比

※ROEは、下記計算式により年換算して算出しております。

ROE (年換算) = (四半期純利益×4) ÷ ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) ÷ 2) × 100

2026年2月期第1四半期 連結業績

- IoTソリューションは減少するも、ビジネスソリューションの増加で、前年同期レベルを維持
- 経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は、**過去最高を更新**

単位：百万円 (百万円未満切捨て)	2025年2月期 第1四半期実績	2026年2月期 第1四半期実績	増減率	2026年2月期 通期 業績予想	進捗率
売上高	5,064	4,920	△2.8%	20,000	24.6%
うち ビジネスソリューション	4,051	4,124	+1.8%	15,000	27.5%
うち IoTソリューション	1,012	795	△21.4%	5,000	15.9%
営業利益	326	315	△3.2%	1,600	19.8%
経常利益	321	★ 353	+9.9%	1,700	20.8%
親会社株主に帰属する 四半期・当期純利益	191	★ 218	+14.1%	1,150	19.0%
1株当たり 四半期・当期純利益	10.54円	11.99円	+13.8%	64.06円	—

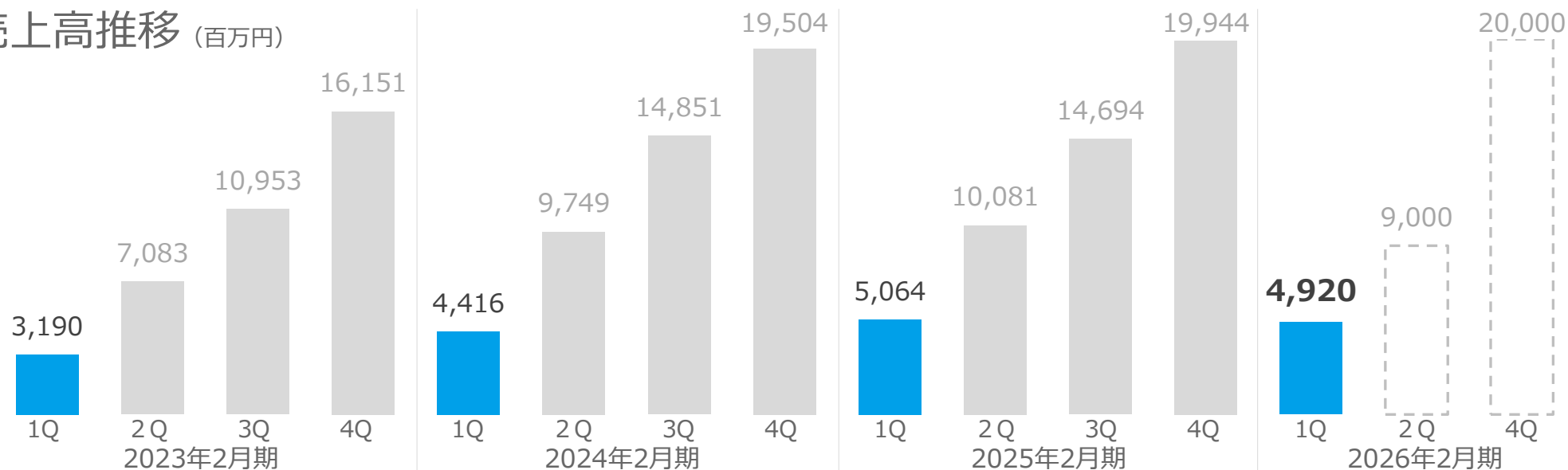
※サービスビジネスの売上は、ビジネスソリューションとIoTソリューションに含まれています。

※★は過去最高

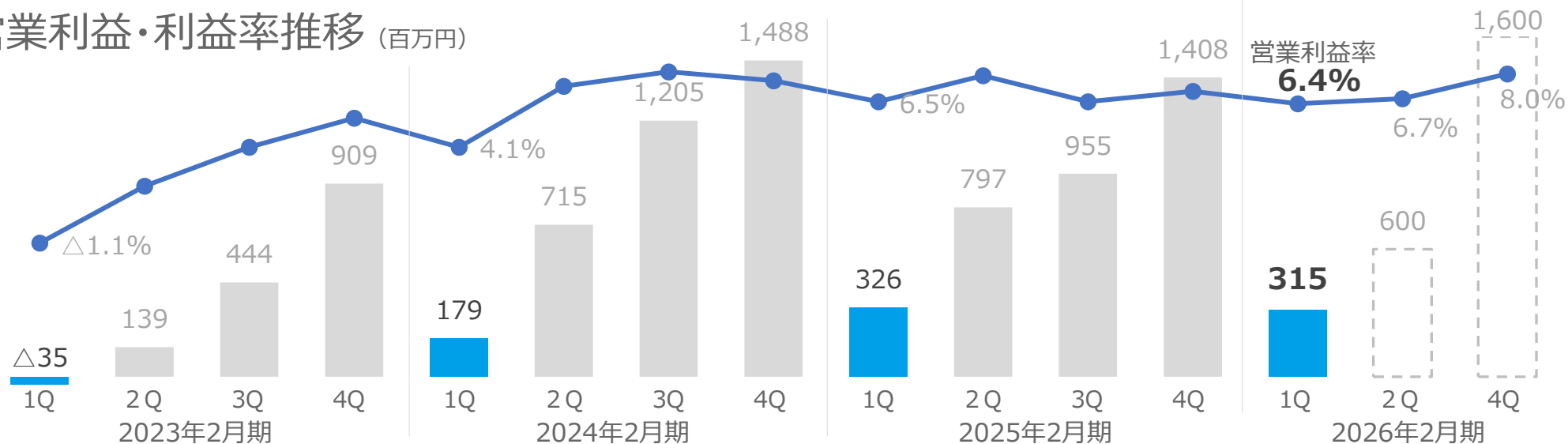
※2026年2月期連結業績予想における「1株当たり当期純利益」については、2025年3月31日開催の取締役会決議により実施している自己株式取得の影響を考慮しております。

連結業績推移

売上高推移 (百万円)



営業利益・利益率推移 (百万円)



2026年2月期第1四半期（連結） 事業別の概要（ビジネスソリューション）

売上高は41億24百万円（対前年同四半期比1.8%増） 7期連続増収

ERPソリューションは、当社プライムでのビジネスDX推進・構築や新たな顧客開拓や案件獲得により高水準で推移
移動体通信事業者向けや自動車製造業向けのビジネスシステム開発も、堅調に推移

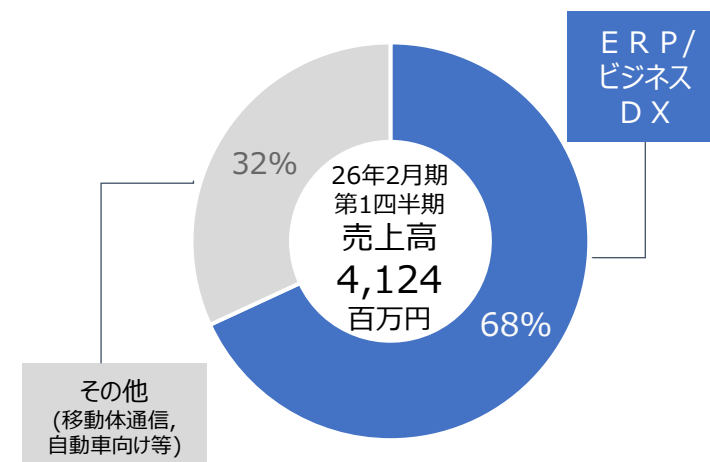
取組 状況

- 当社プライムでのビジネスDX推進・構築の継続とノウハウを活かし、新たな顧客開拓や案件獲得
 - ・ 戦略的パートナーとのタイムリーな連携により、新規プロジェクトへ参画
 - ・ 新統合プラットフォームのファーストユーザー受注獲得

単位：百万円
(百万円未満切捨て)

	2025年2月期 第1四半期	2026年2月期 第1四半期		
	実績	実績	増減額	増減率
ビジネスソリューション	4,051	4,124	+73	+1.8%
ERP・ビジネスDX	2,676	2,808	+132	+4.9%
その他 (移動体通信・自動車向け 等)	1,375	1,315	△59	△4.3%

売上割合



2026年2月期第1四半期（連結） 事業別の概要（IoTソリューション）

売上高は7億95百万円（対前年同四半期比21.4%減）

物流DX事業は、前年度の受注減の影響もあり、前年同四半期に比べ減少
文教、畜産DX、スマートシティ向けソリューションは、若干増加

取組
状況

物流DX

- ・ 製造業向け工場内物流への展開。引合いは好調
- ・ WMSベンダー協業により流通向け案件が拡大

文教

- ・ 自治体・販売パートナーへデジタル教科書等のキャッシュ機能の提案実施

畜産DX

- ・ エリア営業による面導入で飼料メーカーへ初回ロット（1,000台）導入

スマートシティ

- ・ 補助金活用・広告連携による自治体案件獲得

単位：百万円
（百万円未満切捨て）

IoTソリューション

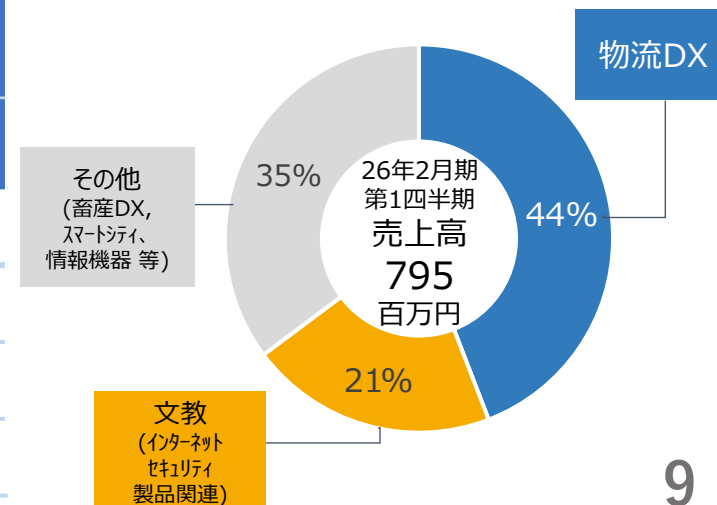
物流DX

文教

その他

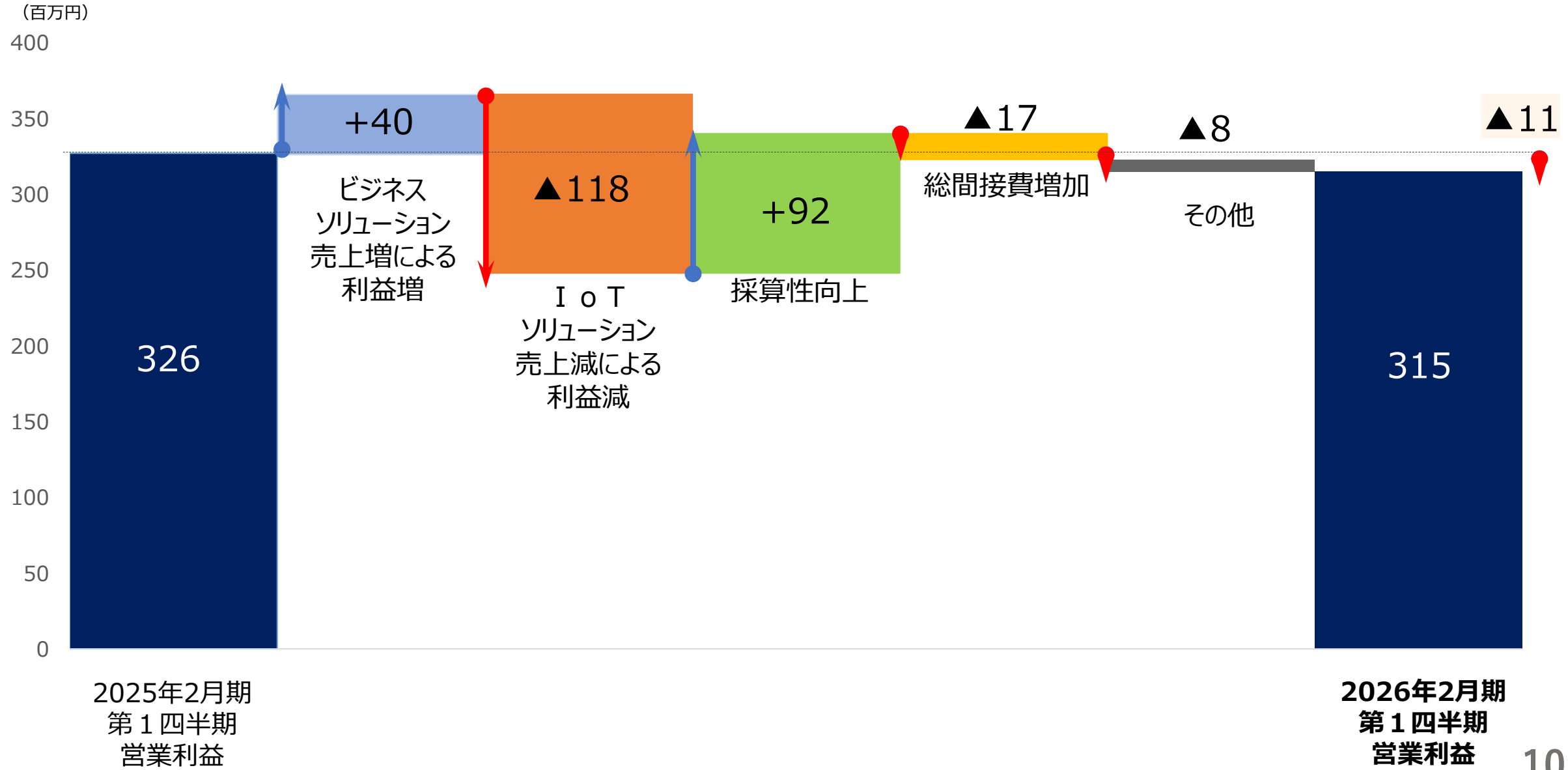
2025年2月期 第1四半期	2026年2月期 第1四半期		
実績	実績	増減額	増減率
1,012	795	△216	△21.4%
440	351	△88	△20.0%
135	164	+28	+20.9%
436	280	△156	△35.9%

売上割合





営業利益増減要因分析（前年同期比）



2026年2月期第1四半期 貸借対照表（対前連結会計年度末比）

単位：百万円 (百万円未満切捨て)	2025年2月期 期末残高	2026年2月期 第1四半期末残高	増減額	主な内訳
流動資産	9,746	9,940	+193	現金及び預金 3億92百万円増、仕掛品 1億75百万円増、 その他58百万円増、受取手形、売掛金及び契約資産 4億20百万円減、 商品及び製品11百万円減
固定資産	3,481	3,456	△24	無形固定資産76百万円増、投資その他の資産のその他16百万円増、 繰延税金資産86百万円減、有形固定資産32百万円減、
資産合計	13,228	13,397	+169	
流動負債	4,117	4,312	+194	未払費用 5億20百万円増、契約負債47百万円増、支払手形及び 買掛金 1億91百万円減、未払法人税等 1億58百万円減、 役員賞与引当金30百万円減
固定負債	1,863	1,842	△20	退職給付に係る負債20百万円減
株主資本	6,884	6,760	△124	
純資産	7,247	7,242	△5	新株予約権 1億18百万円増、利益剰余金35百万円増、 自己株式 1億62百万円増
負債純資産合計	13,228	13,397	+169	
自己資本比率	51.3%	49.8%	△1.5%	
ROE	16.5%	13.0%	△3.5%	

※2026年2月期第1四半期ROEは、ROE（年換算）＝（四半期純利益×4）÷（（四半期期首自己資本＋四半期期末自己資本）÷2）×100 により、年換算して算出

2026年2月期 上期および通期 連結業績見通し



 YE DIGITAL

2026年2月期 上期および通期 連結業績見通し

■ 計画どおり順調に遂行中 2025年 3月31日に発表の公表値から変更なし

単位：百万円 (百万円未満切捨て)	2025年2月期 実績		2026年2月期 予想			
	第2四半期 (累計)	通期	第2四半期（累計）		通期	
			予想	対前年 増減率	予想	対前年 増減率
売上高	10,081	19,944	9,000	△10.7%	20,000	+0.3%
営業利益	797	1,408	600	△24.8%	1,600	+13.6%
経常利益	856	1,529	650	△24.1%	1,700	+11.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	559	1,038	400	△28.5%	1,150	+10.7%
1株当たり当期純利益	30.69円	56.84円	22.15円	△27.8%	64.06円	+12.7%
年間配当金 (うち中間配当金)	(10円)	20円 (10円)	(10円)	—	20円 (10円)	— (—)

※2026年 2月期連結業績予想における「1株当たり当期純利益」については、2025年 3月31日開催の取締役会決議により実施している自己株式取得の影響を考慮しております。

トピックス



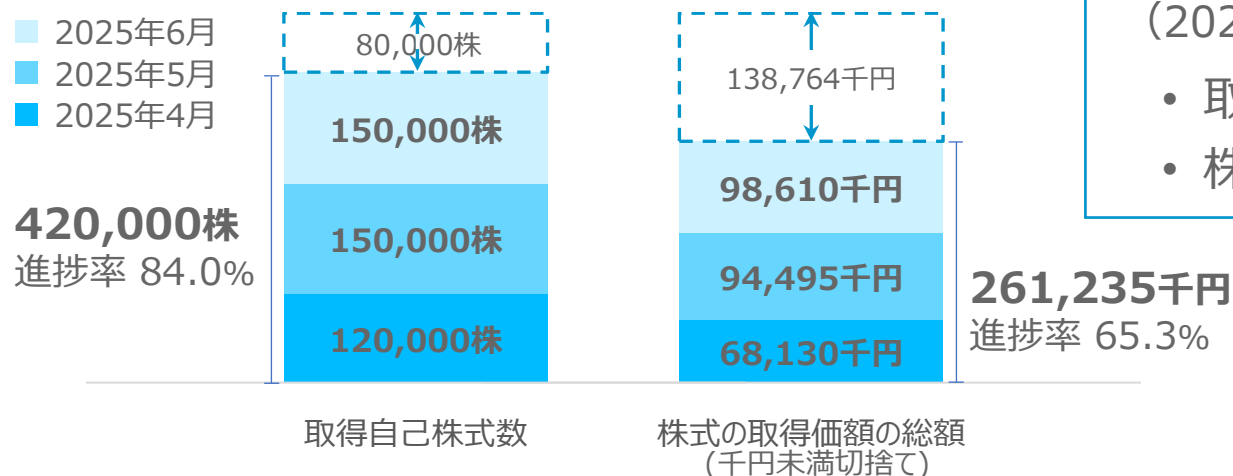
 YE DIGITAL

持続的成長と中長期的な企業価値向上を図るため、株主還元と資本効率の向上への取り組みとして自己株式の取得を実施

2025年3月31日開催の取締役会における決議内容

- 取得対象株式の種類 普通株式
- 取得し得る株式の総数 500,000株（上限） ※発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合：2.73%
- 株式の取得価額の総額 400,000,000円（上限）
- 取得期間 2025年4月14日～2026年2月27日
- 取得方法 信託方式による東京証券取引所での市場買付け

● 現在の取得状況



上記取締役会決議に基づき取得した自己株式の累計
(2025年6月20日現在)

- 取得した株式の総額 **420,000株**
- 株式の取得価額の総額 **261,235,700円**

公立大学法人

北九州市立大学



 YE DIGITAL

産学共同の実践的教育で ビジネス課題解決能力の育成とデジタル人材を創出

- 北九州市立大学が2027年4月に開設予定の新学部「情報イノベーション学部」(仮称・設置構想中)において、協働で教育を実施
- 情報工学の先端技術を駆使する高度人材、GX推進や地域の課題解決に寄与するデジタル人材の創出を目指す

インターンシップ等
学生の課題解決能力の向上に
向けた実践的な学びの機会を提供



**地域社会の発展と持続可能な
未来の構築に貢献する人材を養成**



写真左から、北九州市立大学 柳井学長 YEデジタル 玉井社長

APPENDIX



 **YE DIGITAL**

2027年度 YEデジタルの目指す姿 【再掲】

最高のエクスペリエンスを支援するデジタル・サービス企業

中長期的なアウトカムを実現する企業

株主・投資家

- 株主価値の向上と企業の持続的成長の実現
- IR活動による透明性の向上と建設的な対話の促進



デジタル・データで課題を解決する企業

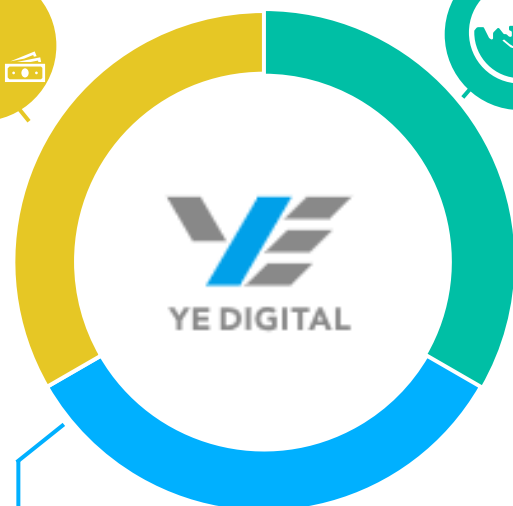
社会・顧客

- 【社会】超スマート社会の実現
- 【顧客】デジタル化の進展とデータドリブン経営の実現



高い誇りを持ち、働きがいのある企業 従業員

- 人材価値を最大限に発揮
- 会社や仕事を通じた自己実現
- 従業員およびその家族のウェルビーイングの実現





2025-2027 中期経営計画の基本方針 【再掲】

プロダクト・サービスの機能的価値から顧客体験価値を軸にした事業モデルに変革し、顧客や社会のDXやCXを加速する。

最高のエクスペリエンスを支援するデジタル・サービス企業

方針 1. 顧客起点のマーケティング戦略の展開

方針 2. カスタマーサクセスに導くプロダクト・サービス力の実現

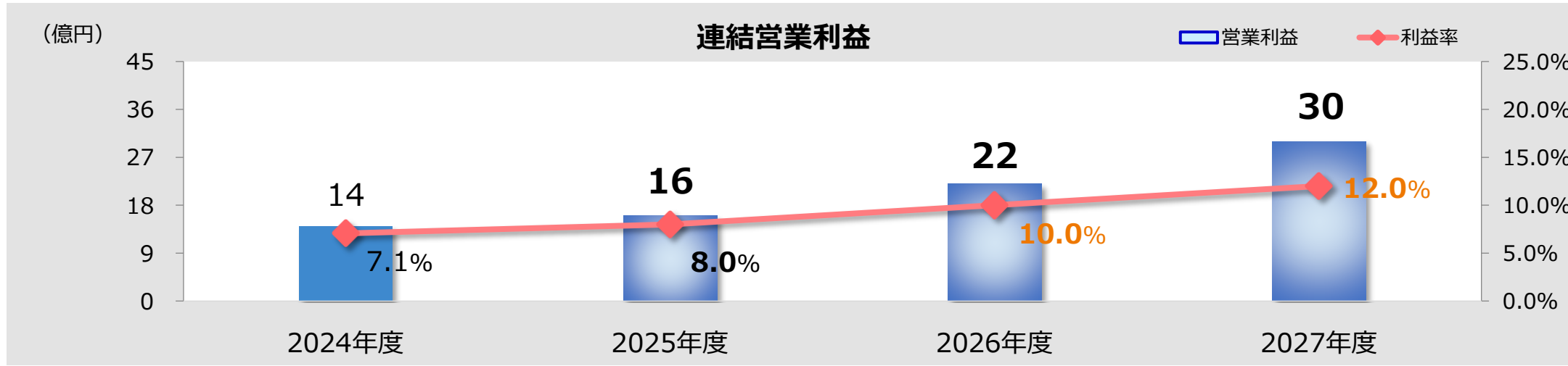
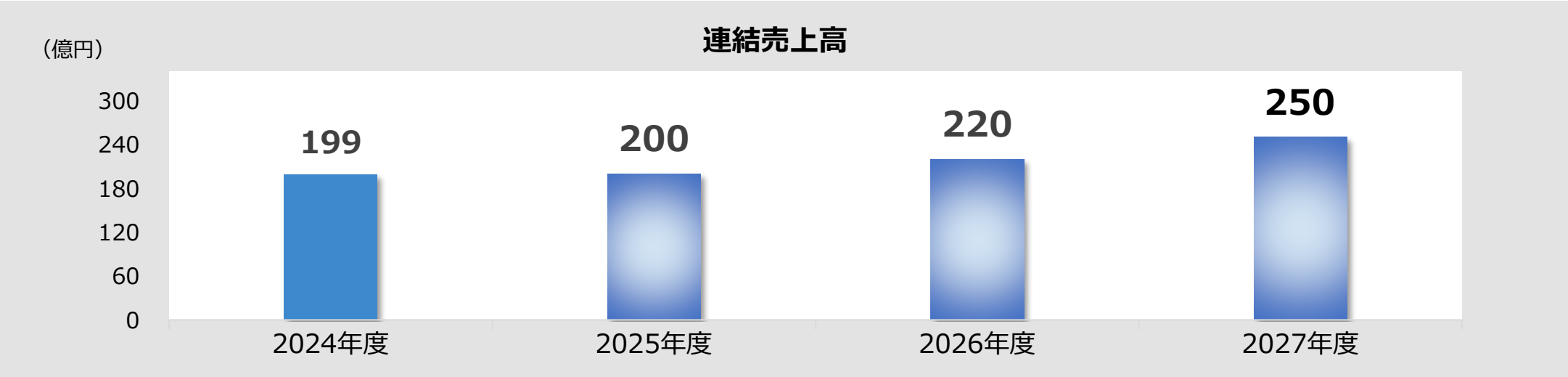
方針 3. ビジネス拡大を支える投資戦略の推進

方針 4. 持続的成長を支えるサステナビリティ経営の推進



2025-2027 中期経営計画（目標数値）【再掲】

2027年度(中計最終年度) 目標数値 連結売上高 **250億円** 連結営業利益 **30億円** ROE **25%**



方針 1. 顧客起点のマーケティング戦略の展開 【再掲】

顧客ニーズ・課題を起点として、部門・他社を超えて様々な手法や形態で連携し、DX（デジタルプロダクトやサービスの提供）を通じて顧客の期待を超える体験や価値を追求することで、カスタマーサクセスを実現する

顧客ニーズ・課題起点のビジネス展開

CX戦略の深化によるカスタマーサクセスの実現

CX
の
追
求



従来のカスタマーサクセス

プロダクトやサービスが持つ
具体的な機能や品質から得られる利益



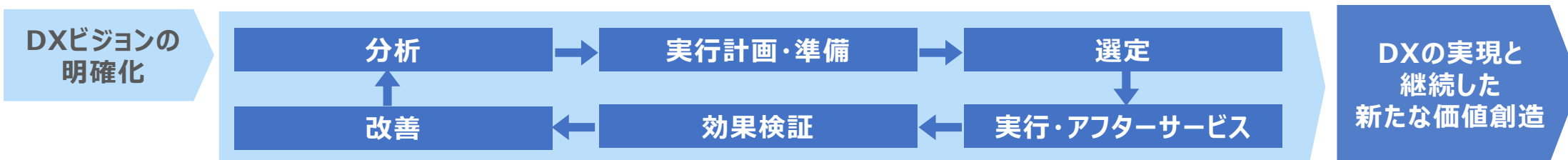
今後目指すカスタマーサクセス

プロダクト・サービスの利用を通じて顧客が
自己実現することによる利益・満足・感動

↑↓

DX
の
推
進

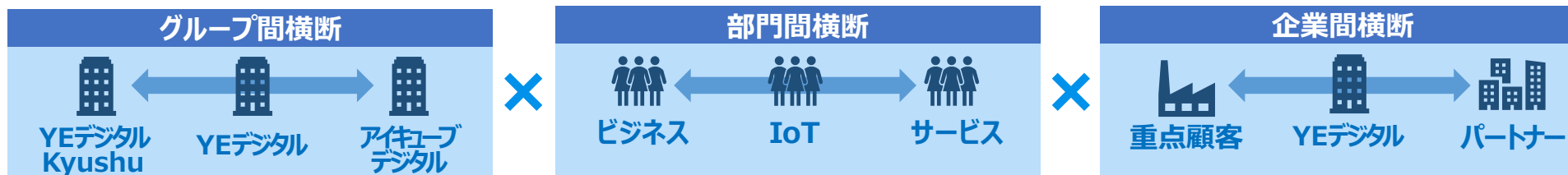
システム導入やデータ基盤構築などの実行およびPDCAサイクルによるDXの実現



↑↓

デ
ジ
タ
ル
共
創

重点顧客との成長戦略や組織内外とのデジタル共創戦略の推進



方針2. カスタマーサクセスに導くプロダクト・サービス力の実現 【再掲】

システム導入から、データ活用、ビジネス変革までのトータル支援により、継続的に顧客のDXを支援する
また、支援チャンネル全体で品質向上を図り、継続した伴走型DX支援を通じてカスタマーサクセスを実現する

顧客のニーズ・課題のキャッチアップ



プロダクトアウトからマーケットインへの転換

目指す姿

顧客DX推進の伴走型支援（システム導入～データ活用～ビジネス変革までのトータル支援）

デジタル化支援（従来）



データ活用・ビジネス変革支援(カスタマーサクセスの実現)

顧客

当社



システム利用



システム導入



運用



保守



データ可視化



データ収集



データ分析



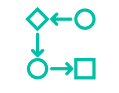
経営判断
マネジメント



変革・改善
提案



カスタマー
サクセス

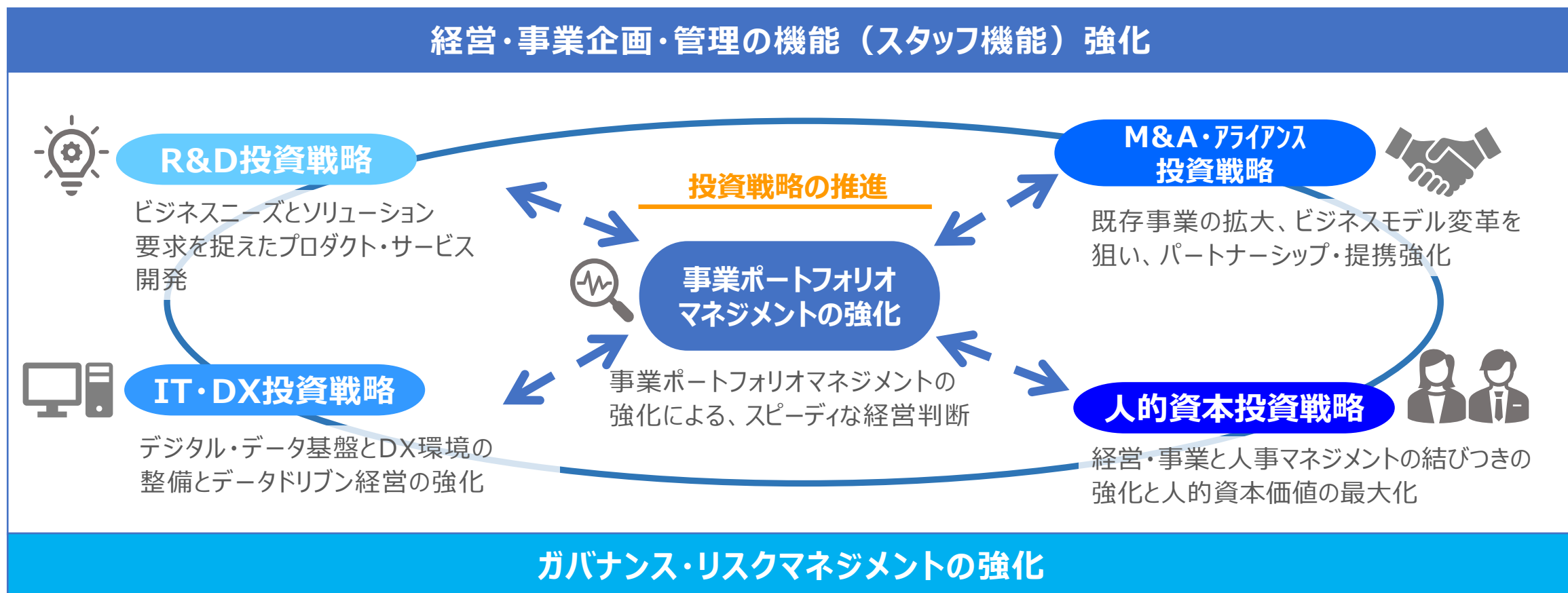


ビジネス
プロセス変革

DX品質力（プロジェクト品質・システム品質・サービス品質・データ品質）の向上

方針3. ビジネス拡大を支える投資戦略の推進 【再掲】

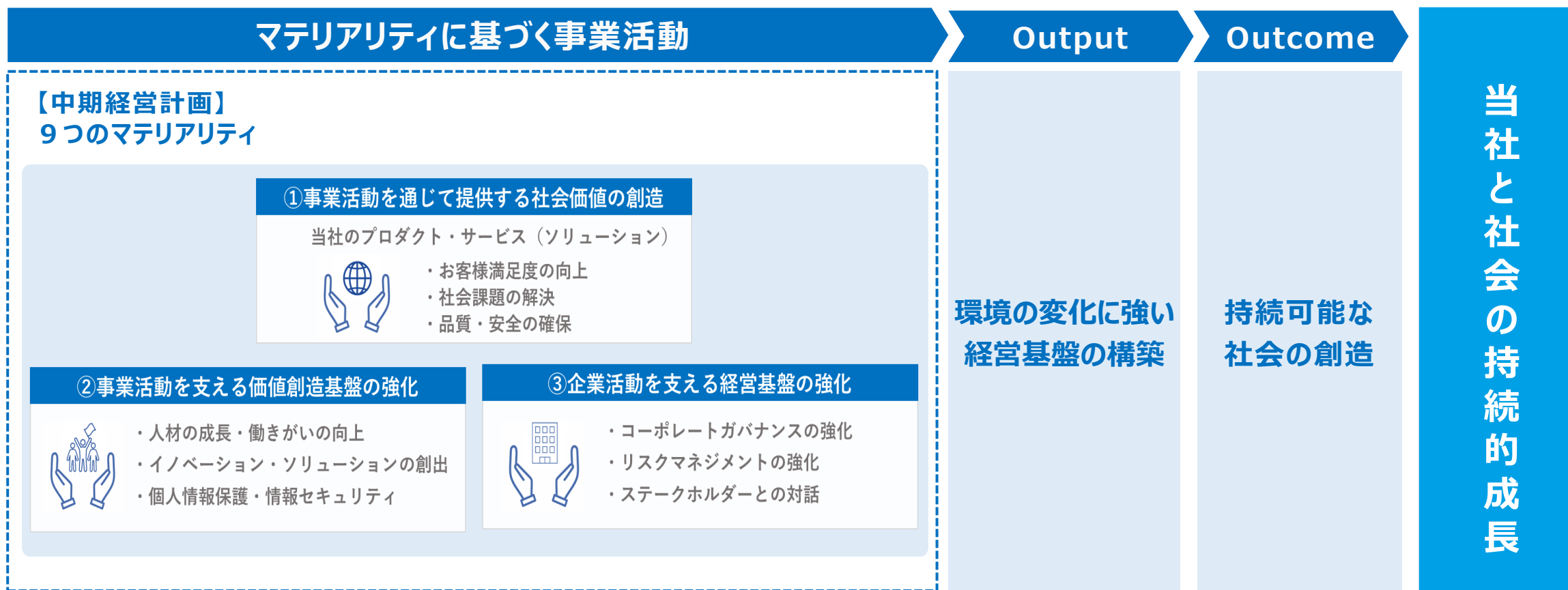
事業ポートフォリオマネジメントの強化を図るとともに、管理体制や管理手法の見直し・強化とデータを活用する人材の育成によりデータドリブン経営を推進する



方針4. 持続的成長を支えるサステナビリティ経営の推進【再掲】

サステナビリティ経営を強く推し進めることで持続可能な社会に貢献し、社会と共に成長を続けることを目指す

サステナビリティ経営の推進





本資料について

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載されています。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。

従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

【お問い合わせ先】

 **YE DIGITAL**

管理本部 企画部 I R 担当

URL:<https://www.ye-digital.com/ir/>



デジタルで、
暮らしに明るい変革を。

